

1. 教育の責任

主な担当は、保育士資格および幼稚園教諭二種免許取得に関わる「保育の内容・方法の理解に関する科目」と「領域および保育内容指導」の科目である。

担当科目名を以下に示す。

■ 保育の内容・方法の理解に関する科目

- ・ 「保育の展開技術Ⅰ」：演習、1年前期
- ・ 「子どもの生活と遊び発表演習Ⅰ」：演習、2年前期
- ・ 「子どもの生活と音楽遊びⅡ」：演習、2年前期
- ・ 「保育の展開技術Ⅱ」：演習、2年後期
- ・ 「子どもの生活と遊び発表演習Ⅱ」：演習、2年後期

■ 領域および保育内容指導

- ・ 「保育と青森（表現）」：講義、1年前期
- ・ 「保育実践と青森（表現）」：演習、1年後期

■ 教職実践に関する科目

- ・ 「教職実践演習」：演習、2年後期

■ 保育実習・総合演習

- ・ 「特別研究」：2年通年

■ 総合教育科目（人間と理解）

- ・ 「人間と芸術」：講義、前期

本学の音楽表現に関わる科目は、基礎力養成期に位置付けられた「保育の展開技術Ⅰ」および「子どもの生活と音楽遊びⅠ」から応用実践力育成に位置付けられた「子どもの生活と音楽遊びⅡ」および「保育の展開技術Ⅱ」へと密接な繋がりをもっており、「授業内容」、「課題」、「到達目標」、「評価基準」を科目間で関連させることによって学習成果を高める工夫をしている。これらの科目は複数の非常勤講師と協働して授業を実施する必要があるため、学生の習熟度と進度を確認するチェックシートを用いて指導にあたり、教授内容についても共通理解が得られるように話し合いを密に行っている。「子どもの生活と遊び発表演習Ⅰ」、「子どもの生活と遊び発表演習Ⅱ」、「保育と青森（表現）」、「保育実践と青森（表現）」は他分野の教員とのオムニバス形式の授業展開となるが、担当教員間において、評価基準を明確に設定し学修状況を共有することで、総合的な学びが実現するように努めている。

2. 教育の理念と目的

幼児保育学科の教育目標の内容には、「子どもたちへの献身的な「教育愛」に基づいて行われる保育者としての営みが、子ども一人ひとりの幸福だけでなく、社会全体の幸福を願うものである」と約せる部分がある。保育者には、多感で可能性を秘めた子どもたちに、「表現すること」や「学ぶこと」の楽しさを伝え

るチャンスが与えられている。子どもや社会の幸せのために、そのチャンスを生かしていくことの素晴らしさと、それを保育者として実現していくための様々な方法について探求することの面白さを学生たちに伝えていきたいと考えている。

3. 教育の方法

(1) ピアニストとしての経験を活かした指導

保育者養成カリキュラム（短期大学）において短期間で演奏技術を習得させるために重要なことは、どのレベルの学習者にも共通する普遍的な正しい弾き方を初期段階において習得させ、その上で保育分野を目指す学生にとってより効果的な教材や指導法に転換・応用していくことだと考えている。時代を超えて活用されているピアノ教則本を指導に取り入れて、じっくりと基礎を学んでいくことは理想の学びの形ではあるが、短期大学においては時間的にも厳しい。また、苦手意識を持つ初心者の学生にその方法が適切でない場合も多い。格式のある複数の教則本の段階毎の目的や練習内容を熟知していれば、そのコアな部分を分析・関連付けて指導に活かすことは可能である。よりシンプルに昇華した指導法（技術、奏法、表現方法など）を「子ども歌」の演奏や表現活動に転換・応用することで学びの質を担保するように努めている。次年度にむけて、ピアノの自主学習のためのレクチャー動画（ICT教育）を作成し、授業効果を高める工夫をしていきたい。

(2) 表現活動における「気づく力」、「構成する力」を育む工夫

他領域との関連はもちろん、表現活動には造形活動、身体活動、音楽活動、お話の世界、絵本の世界、ごっこ遊びなど細分化したらきりがないうほどの活動が融合されている。領域「表現」に関する授業では、自然環境をテーマにした表現活動や、音で作るお話の世界など、子どもたちの周りにある音、言葉、絵などを組み合わせた創作活動を授業に取り入れている。学生が、身近にある様々な「表現の素材」に気づき、表現の世界の奥深さ、多様性、多面性を知ることで、子どもの豊かな感性を育むための活動を構成・展開していくための基礎力を育んでいる。

(3) 「表現者」となる場の創出

2年間の表現活動の集大成として、幼児保育学科2年生全員でオリジナルミュージカルの制作に取り組んでいる。制作活動は、2年前期開講「子どもの生活と遊び発表演習Ⅰ」と2年後期開講「子どもの生活と遊び発表演習Ⅱ」の授業内で実施している。完成したミュージカルは、学内での練習・発表をフィードバックした上で、青森市内の会場にて、一般向けのミュージカル公演として上演している。

学生は、キャスト・造形・音楽の3分野に分かれて制作活動にあたる。シナリオの作成から合同練習にむかうおよそ1年間という時間の中で、担当分野以外の関わりや制作中の検討や調整を通して、学生たちは様々な表現方法を探求していく。その時間で培った眼と上演される作品の中で、学生たちは「表現者」へと成長していく。「表現者」となった経験は、子どもたちの表現活動を支え、導く、保育者としての力につながると考えている。

4. 教育の成果・評価

担当する科目の授業改善アンケートの評価結果は、全体平均に比べ良好であった。1年次講義系科目においては問5「自ら学ぶ意欲が湧きましたか」(4.5)、問6「自ら進んで課題を発見し、探求する力が身につきましたか」(4.3)などは他の質問膏言に比べると若干低い点数となっていた。音楽表現分野においては、

1年生の1週間あたりの平均勉強時間は、30分～1時間(24.13%)、1～2時間(46.3%)、2～3時間(11.1%)、3時間以上(11.1%)という比較的熱心に取り組んでもらえたという結果を得た。2年生の1週間の時間も：1～2時間(22.4%)、2～3時間(20.9%)、3時間以上(14.9%)であり、全体平均を上回っている。

1年前期の音楽関連科目における成績分布のバランスは、S(29.6%)、A+(16.7%)、A(14.8%)、B+(13.0%)、B(11.1%)、C+(11.1%)、C(3.7%)、D(0)、昨年と比較すると下位層が減少し、上位層が増えたという結果となった。基礎力養成期の授業内容としては妥当だと判断している。また、2年前期の音楽関連科目の成績分布では、S(20.5%)、A+(12.3%)、A(20.5%)、B+(27.4%)、C+(5.5%)、C(4.1%)であり、前年度より評価の高い学生が増加したという結果になった。旧カリキュラム実施学年の2年次の成績より、新カリキュラム実施学年の2年次成績が向上したということは、移行に伴う1年次の科目の授業内容、課題内容、達成水準レベル設定・変更の有効性がみられたと判断できるのでないか。次年度も引き続き検証し、授業内容の改善を目指したい。

5. 今後の目標 (改善・努力)

- ① ピアノ課題の他に「子どもの歌」を歌う機会を設定することで「子どもの歌」のレパートリーを増やし、表現活動の幅を広げる。
- ② 特別研究において「食育ソング」を活用した研究テーマ（可能であれば附属幼稚園での実践研究）を設定する。
- ③ 入学前教育の一環として実施するピアノレッスン等から学生の習熟レベルを把握し、2年間の学習成果を可視化および分析する。

6. その他

- ① 附属幼稚園での「5 Minutes Concert」を再開し、音楽教育の実践の場をふやしたい。
- ② 園の先生との共同教材研究などを実現し、現場の保育者や子どもの姿を授業に反映させたい。

7. 根拠資料

- ① シラバス
- ② 音楽関連 課題チェックシート
- ③ 授業レポート
- ④ 提出課題（創作作品など）
- ⑤ 授業評価アンケート
- ⑥ 成績評価分布 他